

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

## Cinet

⑤

らがプレーのさなか、どう身の回りを認識しているかは映像だけでは分からない。

脳情報通信融合研究センター(Cinet)

では、脳機能、特に人間の認知機能と感覚運動機能の関係を調べている。一流選手の試合後の談話は、彼らの身の回り認識(外界認知)の特徴を知ることがかりになる。

野球のメジャーリーグで活躍する日本人が増え、日々、深夜までテレビ観戦する人も増えてきているようだ。一流選手たちの躍動を映像で見ると、その特筆すべき運動能力は一目瞭然である。しかし、彼

が、打撃の神様川上哲治氏は「球が止まって見える」と語ったと言われている。果たして本当にこのような経験

はできるのだろうか。

Cinetでは手を

動かす時、手が実際に

動く前の運動準備中に

は、見たものが実際より

長く提示されて感じ

ることを明らかにし

予測することは、普通

に「調子がいいときは

球が打ちやすく見え

や負荷がないレバーを

動かして回答すること

も得られるのである。

そなのである。

その際、レバーの動き

やすさを調整し、被験

者は真荷があるレバ

ーを動かすことで答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

を動かすことと答え

# 運動機能向上外界認知が貢献

脳情報通信融合研究センター 研究員 羽倉 信宏

08年京大大学院博士。同年国際電気通信基礎技術研究所、10年英ロンドン大UCL校、15年より現職。身体運動と知覚の脳内メカニズムについての基礎研究に従事する。



とした。

実験の結果では、参加者が負荷がないレバーを動かす方向に合致した方向へ、点が動いていると判断するようになった。つまり見ている物体の動きは運動

のしやすさの影響を受けるのである。人間の外界認知の特徴として、運動機能の向上にも役立つ知識や技術が得られないか。

「選手たちはフィ

ールドで、何を感じているのだろうか」とい

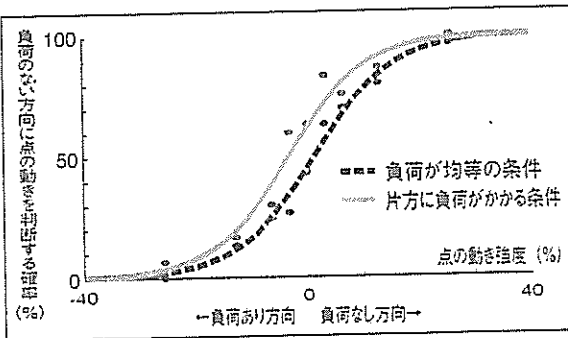
うことに思いを巡らせ

ることも、スポーツ観

戦の一つの醍醐味では

ないか。

(火曜日に掲載)



レバーを動かす実験の結果。負荷が同一の場合(点線)に比べ、負荷がかかった場合(実線)では点の集合が「負荷がない方へ動いている」と判断する確率が上昇している

科学技術・大学